

各関係機関、団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

## 発生予察情報の送付について

病虫害発生予察注意報（第5号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

## 令和2年度 病虫害発生予察注意報（第5号）

令和2年8月6日

愛媛県

病虫害名 コブノメイガ  
作物 水稲（普通期栽培）

1 発生地域 県下全域

2 発生程度 多

3 注意報発表の根拠

- （1）7月の定点調査の結果、早期栽培、普通期栽培ともに平年より被害葉率は高く、多の発生である（表1）。
- （2）7月の各地域の広域調査では、過去10年で発生圃場率は最も高く、平年の2.5倍となっている（図1）。特に、中予地域での発生圃場率が高い（表2）。
- （3）現在（8/5時点）の発育ステージは、飛来時期により異なるものの、概ね卵～幼虫期であり、8月中旬以降から幼虫の食害が多くなると予想される（図2）。
- （4）1か月予報（7月30日発表）では、平均気温は高いとされており、発生には助長的である。

4 防除上の注意

- （1）防除適期は、粒剤では成虫発生最盛期、粉剤・液剤では成虫発生最盛期の7～10日後（若齢幼虫期）である。なお、地域により飛来時期が異なる可能性があるため、圃場観察により成虫発生最盛期を把握する。
- （2）葉色の濃い圃場では、成虫が多く集まり、その後の幼虫による葉の食害が激しくなる傾向があるので、特に注意する。

表1 定点調査におけるコブノメイガの発生状況(R2.7)

作型	調査圃場数	被害葉率(%)	
		令和2年	平年
早期栽培	12	0.24	0.03
普通期栽培	19	0.24	0.02

1)平年値:H22～R1の10年の平均

表2 広域調査におけるコブノメイガの発生状況(令和2年)

地域	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率(%)
東予	156	59	37.8
中予	174	148	85.1
南予	52	24	46.2
県全体	382	231	60.5
平年	257.4	61.2	23.8

1) 平年値:H22~R1の10年平均

2) 調査は7月7日~31日に実施

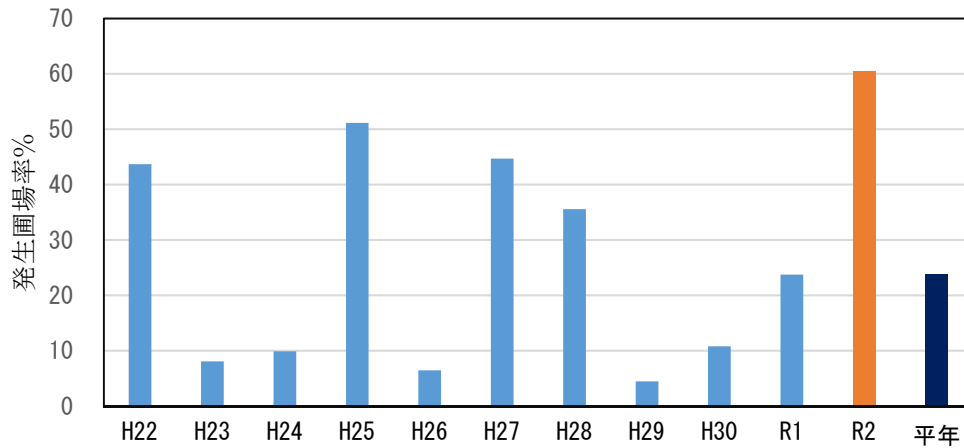


図1 広域調査におけるコブノメイガの年別発生状況 (7月調査)

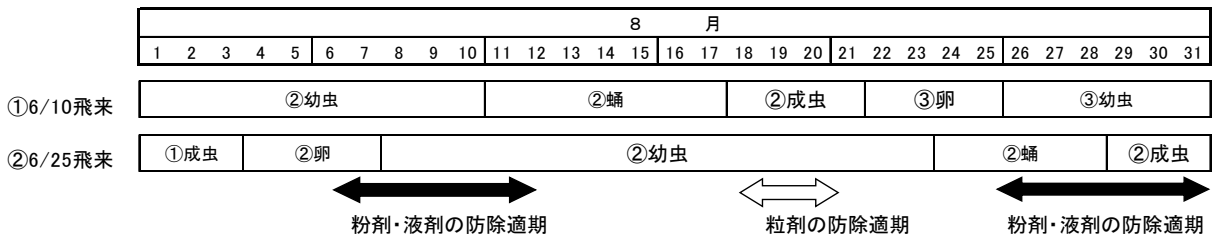


図2 コブノメイガの发育ステージと防除適期の予測(R2)



成虫



被害葉

写真 コブノメイガ